

多様な担い手の育成

(子ども・若者・女性等の参画、世代交代・多様化)



〈4班〉

三国町黒目区	塩谷 圭司
丸岡町羽崎区	中垣内 秀信
春江町春日野区	奥村 智和
坂井町五本区	伊藤 幸治

4班の発表をはじめます。

4班は、多様な担い手の育成、
特に若者や女性の地域参加をどう増やしていくかについて考えました。

01

課題・可能性・アクションプラン

課題

- ・高齢化
- ・多様な生活様式
- ・関係性が薄い
- ・進まない世代交代
- ・古い慣習、前例踏襲

可能性

- ・元気で長生き
- ・いろいろな価値観
- ・顔見知りなら…
- ・同じ世代なら…
- ・公平に継承したい

プラン

- ①新・活力を応援
- ②仕組みづくり

発表の流れは4班で抽出した地域の課題、可能性として考える強み、それらを掛け合わせたプランで進んでいきたいと思えます。

02

地域の課題

- 福祉** みんなが関わる地域活動が難しい。
- 防災** 関係性が薄く、結局「他人事」だ。
- 担い手** 世代交代したいのに、変化を拒んでいる。



まず、地域の課題から見ていきます。私たちの地域には、いろんな課題があります。特に話題になるものとして、地域福祉、防災、担い手でまとめました。

地域福祉の観点では、若年層の流出などにより何をしても年齢層が高い。暮らしの変化で地域活動への参加が難しくなっているのではないかと。

防災では、地域に暮らす方の状況や要支援者の避難支援の準備ができていないなど昔に比べ、住んでいる人や家族のことを知っている人が少なく、それを得られる情報も少なくなっている。

担い手では、いつも同じ人が出てきている、若者の意見が通りにくいなどで変化が難しくなっている。地域の課題に向き合うといろいろな原因が見えてきます。



考察

希望だって、ちゃんとある。

みんな本当は
気づいている。



- ・元気に長生きする人が増えている。
- ・多様性を認め合っていくことは大事。
- ・顔見知りがいる場には行きやすい。
- ・同じ世代同士なら遠慮なく話せる。
- ・役割を公平に継承できる体制を望んでいる。
- ・「自慢、グチ、非難」には、みんな辟易している。

それでも地域が持つ強みが解決に希望を持てる要素、可能性もいろいろあって、

- ・若者がいなくても元気なお年寄りが多い
- ・子どもから大人障がい者もいろいろな方が生活している
- ・つながりが希薄になっているといってもやっぱり地域の人の方が安心感がある

実は、これにみんなが気が付いて、提案したくても「昔はこうだった。」「そんな変わったことやったって、、、」などの意見に辟易として、それ以上議論が続かなくなってしまう。

4班では、課題の原因の一つに話し合いの場が持たれていない、それを含めて認め合うコミュニケーションをキーワードにこんな未来像を描きました。

思いやりと「それいいね！」が あふれる自治会づくり

お互いを尊重して、できることから一歩ずつ



思いやりと「それいいね」があふれる 自治会づくりです。
いろんな人が住む自治会だからこそお互いを尊重して、できることから、ちょっとずつ進めていこうよ、というものです。

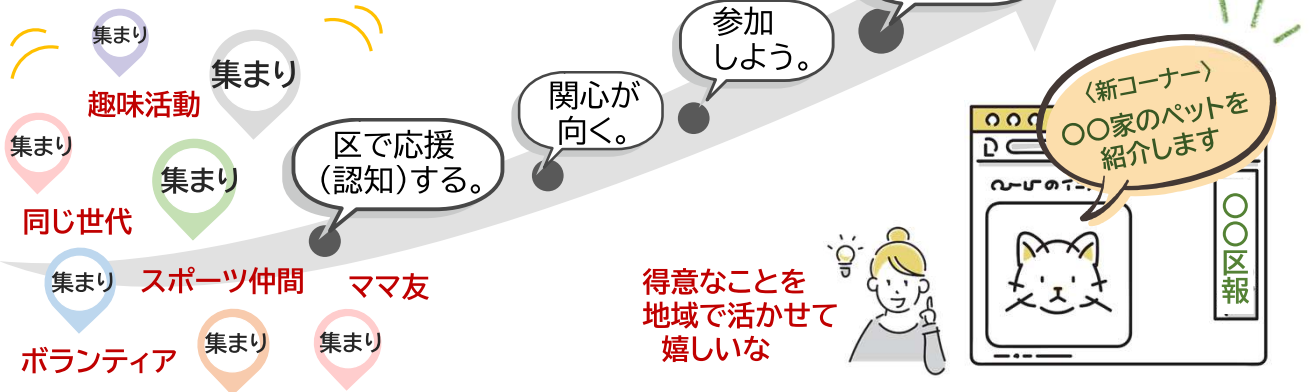
04

アクションプラン① 新たな活力を応援

同世代同士、同じ趣味などの集まりを受け入れる。

全員参加の
自治会運営

〈小さなコミュニティ〉
…参加のきっかけ



1つ目として、新たな活動を応援する、というものです。

役員会、老人会、婦人会等が主に自治会運営の功労者ではないでしょうか。年齢や性別が同じような方が集まるため、意見も偏りがち、やることも今まで通りで落ち着きがち。そこで、自治会運営を区に住む方の小さなつながりを活かす方法です。

例えば、幼馴染、同級生、お茶仲間、ママ友、ゴルフ仲間など、組織のようなルールはなく、気の知れた仲間内のつながりのことです。

区は企画の一部を任せることが出来るかも！くらいの期待で話を持ち掛けると、相談を受けたそのグループは、まず普段から気が知れた仲間と一緒に活動に参加できるかどうか、興味がなければ断る選択権を持てるような自治会運営にストレスを感じない程度で参加できることが良いのではないかと考えました。区としては企画、準備、運営の労力を減らすことが出来る可能性があります。

上手くいけば、健康づくりとか、見守り活動とか、区の活動として取り入れることもできると考えました。

04

アクションプラン② 仕組みづくり

いろんな世代で 少しずつ役割を担える仕組みをつくる。

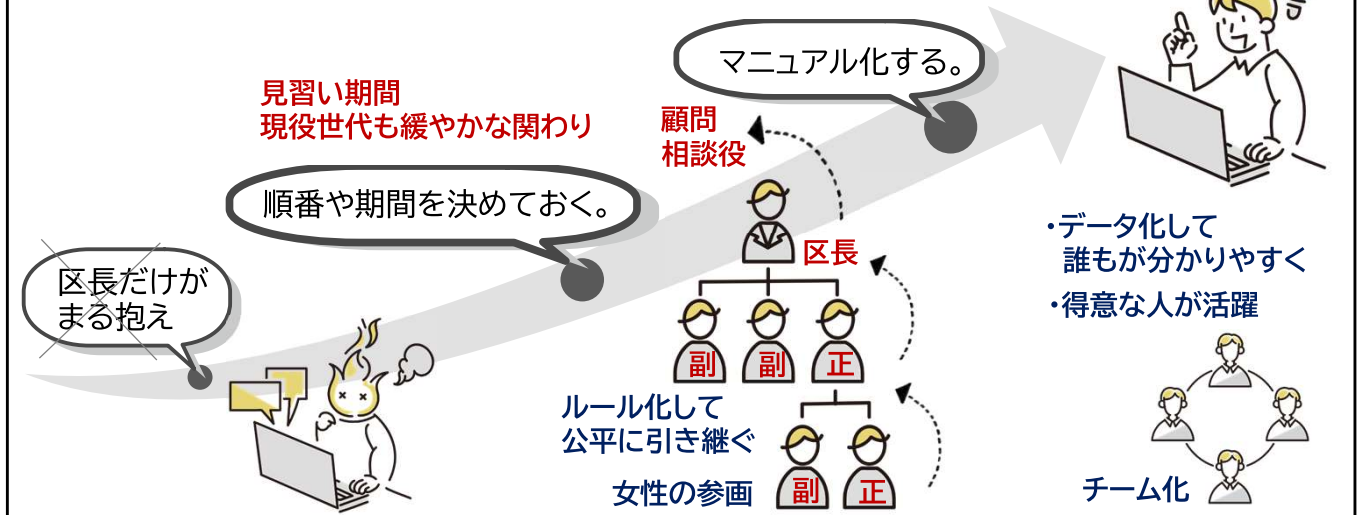


2つ目の案です。いろんな世代で 少しずつ役割を担える仕組みをつくるプランです。それぞれがやりたいことを提案し、しやすい雰囲気、提案があったら「それいいね！」と言って任せると、区への参加も増え役割の融合も果たせると考えます。そして住民同士の相互理解も深まる効果も期待できます。話し合いの場で意見を認め合う「それいいね！」の仕組み作りです。

04

アクションプラン② 仕組みづくり

いろんな世代で 少しずつ役割を担える仕組みをつくる。



この仕組み作りはイベントだけでなく、自治会運営にも活用できると思います。区長だけが何をするのかわからず汗をかくのではなく、副区長→区長→相談役・顧問のように区長業務を予習し、実践し、伝える仕組みや誰でも分かるように区長業務をマニュアル化、デジタル化することです。

PCに慣れていない人はアレルギーになるため、得意な人の活用も含め自治会運営のチーム作りも一つの仕組みだと思います。

4班で話していると、自治会運営は男性役員に偏りがちだよねということに気づきました。区民の多様性に応える仕組み作りでは、女性も話し合いに参加し、「それいいね！」があふれる話し合いの場が大事だと考えました。

05

自治会WSに参加して感じたこと

～ 私たちが取り組みたいこと。皆さんに伝えたいこと。～

◆三国町黒目区 塩谷 圭司 さん

これからの自治会は、**全世代、特に女性若者の関わり**が重要。
もっと若者や女性が区に関われるような仕組みを考えていきませんか。

◇丸岡町羽崎区 中垣内 秀信 さん

責任を回避し合うのではなく、まずは**いろいろな世代で対話**する
機会を増やし、人と人のつながりの場を作りましょう。
話しやすい環境を作れば、自然と若い人たちも自治会活動に
参加してくれると思います。



最後に、このワークショップに参加して、芽生えた気持ち、をお伝えします。

05

自治会WSに参加して感じたこと

～ 私たちが取り組みたいこと。皆さんに伝えたいこと。～

◆春江町春日野区 奥村 智和 さん

自治会への“無関心”は、先送りできない課題。
それぞれ自治会の中で意見を交換し、**区民みんなで
前向きに、楽しく話をする**ことから、**未来を描きましょう。**



◇坂井町五本区 伊藤 幸治 さん

究極の目標は、コミュニケーションを密にして、**全員参加の自治会運営**です。
物事を変えるには**大きな労力が必要**ですが、**前向きに考えて**いきましょう。